

ひとりにもなれる（ひとつにもなれる）

2022・5・9 校長 重枝一郎

ひとり＝主体性・多様性 ひとつ＝協働性・一体感

家庭学習習慣の定着は、学校教育の大きな課題の一つとされています。生徒が家で机に向かえるように先生方はさまざまな指導をしています。しかし、先生や友だちがいる環境なら勉強はできるけど、家でひとりでは勉強できない生徒は多いようです。

ひとりで学ぶためには、目標・動機付け・学習方略の3つの要素がどれだけ確立しているかにあると言われます。このことを「自学」といい、主体性が問われます。

自分はこちらりたいという目標があっても、目標に向かって行動する動機付けがなければ勉強しませんし、動機付けをされていてもどうやっての方略がなければ勉強のしようがありません。ひとりで学べなくても学校でみんなとなら学べるのは、確たる動機付けがなくても友だちが勉強している教室の雰囲気があったり、先生がリードしてくれたりするからです。とにかく外発的にしろ、内発的にしろ、勉強したいという動機付けが弱いのです。または勉強方法がわからないために、家でひとりで勉強できないのです。

では、家で宿題は取り組むけど、それ以外の勉強はしないという生徒についてはどうでしょうか。宿題以外にも自ら学習するのは、学びに対して何らかの動機付けがあるからです。この動機付けには自己効力感（自分はできると感じる）があることがカギになります。この自己効力感は、小さくてもいいので、成功体験が必要になります。勉強したら結果が出たという経験です。これは、誰でも簡単に体験することができます。難しいのは、それを積み上げていくことです。では、継続するには何が大切になるでしょうか。

最も大切なのは『メタ認知能力』です。メタ認知とは、自分の思考や行動を客観的に把握し、認識することです。これがあれば、学び続ける力になっていきます。この『メタ認知能力』は小学校高学年から中学校の時期が高まりやすいことがわかっています。だから、中学校に入ると定期テストが始まります。テストは、振り返り活動がやりやすく、『メタ認知能力』を高めやすい取組であるからです。

ただ、振り返りの質は大切になります。なぜ間違えたのかについて、例えば、「計算ミスで次は間違えないようにします」ではダメで、必ず学習方略につながることでなくてはならないのです。英単語や漢字を覚える効果的な方法や復習しやすいノートの取り方、また、集中力を高める工夫や気持ちの切り替え方など具体的な振り返りでなくては『メタ認知能力』を高めることにはならないのです。メタ認知の過程では他者を見ることも多くの気づきが得られます。友だちがどんな目標をもっているのか、どんな方法で勉強しているのか、中高生になるとそういった影響が高くなります。これが「ひとりにもなれる」という本質的な意味になります。

そして、「ひとりにもなれる」つまり、ひとりで学べる生徒は、実は仲間と学び合える生徒にもなるのです。これが「ひとつにもなれる」ということです。

私は、さまざまな場面で、この「ひとりにもなれる ひとつにもなれる」という言葉を発信しています。年度初めの最初のテストがあるこの時に、この言葉の意味を深く学ぶチャンスになるのではないかと思います。

新生徒会役員の所信表明演説は素晴らしかった！！がんばれよ！